

NGU NEWS ISSN 0915-8901

# COSMORAMA

60

2001  
MARCH



チャペル東面ステンドグラス



Culture & Human Resources  
NAGOYA GAKUIN UNIVERSITY

**CONTENTS**

**Interview**

吉本栄3丁目劇場  
 「ブロードキャスト」に聞く..... 1

**Topics**

通信制大学院(英語学専攻)  
 4月からスタート 清水克正 ..... 2  
 キャリアアップと資格講座  
 三枝 有 ..... 3

**NGU Focus**

南山大学との単位互換について  
 小林甲一 ..... 4  
 チャペルのかたすみで  
 聖書について 山田直義  
 市民参加とは何か 古橋敬一..... 5

**Essay**

シリーズ 「コーシンと歩く瀬戸の街」  
 瀬戸の顔をつくろう 木村光伸..... 6  
 シリーズ エッセイ  
 世紀を越えて 鈴木啓司..... 7

**Campus Now**

ゼミナール訪問  
 「早川厚一ゼミ」..... 8  
 「小嶋博ゼミ」  
 サークル短信  
 体育会「バレーボール部」..... 9  
 文化会「放送文化研究会」  
 ランチタイム 学生食堂紹介  
 ファーストスクエアとf ..... 10  
 課外活動成績優秀者表彰ノ ..... 11  
 2000年度主な動き

**Information**

3教授が最終講義 ..... 12  
 2000年度 卒業式  
 万博シンポジウムを開催  
 父母会寄贈モニタメントを設置  
 2001年度 父母懇談会日程  
 NGUバスを無料化  
 2001年度 資格講座は13講座  
 行事予定 4~5月

**COSMORAMA** (コスモラマ) の由来

「宇宙」や「世界」を表わすCOSMOS(コスモス)とPANORAMA(パノラマ)との合成語。19世紀にロンドンの街角でしばしば行なわれた世界各地の様子をのぞきみせるショーの名称として使われたのが最初。世界の動きに興味を持ち、大きな視点に立ってそれを見渡すことができるようにとNGU NEWSの愛称に採用しました。

名古屋から初の全国区をめざして  
 学生漫才コンビ「ブロードキャスト」にきく



ブロードキャスト プロフィール

写真左 吉村 憲二(よむらけんじ)くん(経済学部4年)  
 右 房野 史典(ふのふみのり)くん(経済学部2年)  
 クラブ「放送文化研究会」で出会い、2000年にコンビ結成。初舞台デビュー。名古屋「吉本栄3丁目劇場」で「PAALIVE」などに出演中。

お笑いの世界へ入ろうとした動機はどういったものだったのですか？

吉村 中・高生の頃からずっとタレントとして芸能界に入りたくて思っていました。昔から人を笑わせたり、人前で目立つたことをするのが好きだったので。名古屋へ来て劇団に所属してみたものの何が自分に向いているのかがまだわからず、他にも音楽活動など色々なことをやってみました。お笑いはその中のひとつでした。

房野 僕の場合は全く今のような生活は想像していませんでした。テレビを見てはなんか楽しいそんな世界だなあと思っくらくらいで。たまたまクラブの

# Interview

## ブロードキャスト



先輩・後輩だったのですが、僕がツッコミ役として相方に選ばれてしまいました。(笑)

この世界のしきたりなど、面白いと感じてはありますか？

吉村 特にしきたりとかいづものはないのですが、やはり修行中の身なので収入が少ないといつとこゝろでは厳しいです。僕は今年で卒業なので、今まであった実家の仕送りがなくなれば、経済的にはより苦しくなると思います。

房野 今売れている芸人さんでも昔売れなかった

常の体験からですね。ふとした時、急に思いついたりします。

房野 練習はやはり劇場です。時には公園などでもやりますが...

大学内で練習することもありますか？

吉村・房野 それはいいです。恥ずかしいです！

NHKのお笑いオンエアバトルに出場されたそうですがその時のエピソードなどありましたか？

房野 あれは10組が出場しまして、客席の評価でそのうちの5組がアテレコに放映されるという番組で

化研究会だったのでそこから付けました。

これからの目標は？

吉村 僕の場合は、以前から目指していることと何も変わってないです。とにかくタレントとして少しでも上を目指せるように自分を磨いていこうです。でも、お笑いの世界だけはずっと続けていきたいと思っています。職業としてお笑いのプロになりたいと思います。

房野 遠い目標ですが、いつか「テルタイム」の番組に出演できるよう頑張りたいです。そのためにはまず名古屋から初の全国区を目指したいと思っています。

学業と仕事の両立、またお二人にとっての大学とは？

吉村 やはり時間的なやりくりが大変です。他にアルバイトもありますし、でも何とか4年間やってきました。大学はやはりこれから先自分がどう生きていくのかを探するための場所ですね。

房野 お笑いをやるためだけに、どうしても大学へ行く必要があるのかどうかわかりませんが、吉本のにいさん、ねえさん、また作家さんなどからも教養や知識を身につけることは、ネタ作りなど、お笑いのためにももちろん一般社会人として生きていくうえで大切だと教えられています。大学はそのための知識を吸収できる場でしょうか？

吉村・房野 あとはやはりいい仲間に出会える場所ですね。

在学生の皆さんに何かメッセージはありますか？

吉村 「色々なことをやってみて、早く自分の何かを見つけてください」

房野 僕も在学生なので...まだ偉そうには言えないです。(笑)

本日はどうもありがとうございました。

頃を思い出して、下積みの辛さはやはり経済的な面にあつたとは言われますね。その分、まだ僕は学生といつ甘さがありますね。

現在の活躍の場は？

吉村 今は吉本栄三丁目劇場でのライブがメインになります。その他にもFM DANCER、Midnight Yoshimotoの月曜パーソナリティをやってます。

房野 後は大学祭やフリーマーケット会場などでのイベントですね。

ネタはどうやって考えるのですか？

また練習場所は？

吉村 ネタは大体僕が考えるのですがやはり日

僕らは2回目で成功しました。

吉村 出演前は緊張といつよりもとにかく自分の達の精一杯のものを出しきることを考えていました。

房野 僕も同じです。周囲は関係なかったですね。もつ本当に自分達の力を出しきることをだけを考えていました。

2人の関係は？

吉村・房野 相方です。

芸名の由来は？

吉村 僕らの所属しているクラブが放送文

# 通信制大学院(英語学専攻) 4月からスタート

外国語学専攻長 清水克正  
外国語学部長

昨年12月、設置の申請を行っていた通信制大学院(英語学専攻)定員40名が認可され今年(2001年)の4月より本格的に始動する運びになりました。通信制による教育形態は本学にとり初めてのものであり、申請前の段階よりかなりの期間を掛けて関係する教職員の間で研究・教育の指導方法などを検討してきました。通信制大学院は、通学制と基本的に異なり、その指導は直接授業で行うというよりも主に最近のメディアを含む幾つかの通信手段を用いて行うものであり、通学制とは異なるた教育上の配慮を行う必要があります。先号において通信制大学院設置への基本的な考え方を述べましたが、本号においては英語学専攻のカリキュラムと授業の進め方などを中心に紹介いたします。

英語学専攻は、先に紹介してきますように、英語の構造についての理論的・応用的研究、英米語の風土・文化を反映する文学研究を中心とする外国語としての英語教授法の理論と実践研究を中心に組み立てられています。本専攻は、これらの3つの領域に対する研究科目(必修)、論文演習科目(選択必修)および研究科目(選択)より成り、英語学関係から語法論・音声学、日英語意味論および業務英語など、文学関係では英米の詩・劇・小説および評論などの作品鑑賞、さらに英語教育学関係では教授法の理論的・応用的研究などの科目が準備されています。各科目の単位は、基本的に通信かスクーリングによる指導を受け、与えられる課題にレポートを書き、適格と判断されれば試験を受け評価が行われます。通信制大学院は、基本的に在宅学習を中心としており、その指導は通信と面接により行われます。通信による指導は、従来の郵便などの手段のほか、

e-mail・インターネットなどのマルチメディア対応のものになります。具体的にいうことは、履修指導・文献紹介・レポートの添削指導および論文演習の指導などであり、連絡のまとめ役としてTA(Teaching Assistant)の方を予定しています。さらに、通信制と言っても、全ての指導を通信で行うのではなく、一部の科目については通常の授業にあたる面接指導を予定しています。面接指導は、スクーリングとして必修科目の一部、入学時の学習ガイダンスおよび、修論作成における個別指導などが予定されています。スクーリングは、研究科目(必修)の3単位分(3科目)と論文演習の2単位分に必要であり、夏季と冬季の休暇中に本学またはサカエデライトで予定されています。また、学習ガイダンスは、入学時のオリエンテーションに対応するものであり、大学院での研究の進め方、履修方法、e-Yaoniの使用、学習上の指針などについてガイダンスに関する小冊子を用いて詳細に説明するものです。さらに、修論指導では論文作成の手順、まとめ方など直接担当の教員より指導が受けられるようになっていきます。

最近の情報技術の発展を踏まえて、英語学専攻の領域においても通信制でかなりの研究・教育の指導が可能になっていますが、在宅での学習を基本にしている以上、入学してくる大学院生は自立的に学ぶという強い意志を持って取り組むことが必要です。さらに、大学院の修士課程に籍をおくことは、取りも直さず研究生活の第歩を歩むことになり、新た

なる分野を切り拓くという心構えが求められます。先号でも述べましたが、マルチメディアの進展を踏まえ、今後、教育の形態は大きく変化することが考えられ、対面授業および通信による遠隔授業の特長などを考慮し、通学制と通信制の壁が低くなることを予想されます。こうした状況の中においては、二つの教育形態の特長を取り入れた新たな教育形態の構築が必要であり、通信制大学院は既存の教育・研究活動に二層の活性化をもたらすことが期待されています。



カリキュラム			
選択・必修	科目名	単位	通信・スクーリング
必修	英語学研究	2	1単位通信・1単位スクーリング
	英米文学研究	2	1単位通信・1単位スクーリング
	英語教育学研究	2	1単位通信・1単位スクーリング
選択	英語語法研究	2	通 信
	英語実務研究	2	通 信
	英語音声学研究	2	通 信
	日英語意味論研究	2	通 信
	イギリス文学研究	2	通 信
	アメリカ文学研究	2	通 信
	異文化間コミュニケーション研究	2	通 信
	第二言語習得研究	2	通 信
	英語教育指導論研究	2	通 信
	英語教育工学研究	2	通 信
教育方法論研究	2	通 信	
選択必修	英語学論文演習	8	6単位通信・2単位スクーリング
	英米学論文演習	8	6単位通信・2単位スクーリング
	英語音声学論文演習	8	6単位通信・2単位スクーリング
	英語教育学論文演習	8	6単位通信・2単位スクーリング



## 南山大学との 単位互換について

経済学部長

小林甲一  
こばやしこういち

本学はこのたび南山大学と学生交流協定を締結し、2000年4月に新設された経済学部政策学科と南山大学総合政策学部(瀬戸キャンパス)のあいだで単位互換を行うことになりました。この存じのように、近年わが国でも、大学教育の活性化や多様化の一環として大学間の単位互換制度が盛んになってきましたが、この中部地区では初めてのことで、協定書調印の時には、マスコミなどから大きな注目を受けました。

単位互換に向けての協議は、昨年6月にスタートし、同時に同じ地域にできた、しかも同じ系統の

学部・学科であり、またその反面、それぞれに特長があつて相互に補充しあえる」という点で合意し、順調にましまりました。意欲のある学生は、本学の政策学科に比較的少ない法律、政治、国際関連などの科目を南山大学で受講できるといふ大きなメリットがあります。

この単位互換制度の対象は、2年生以上の政策学科生で、1学期につき5名程度の学生を南山大学総合政策学部へ派遣します。派遣された学生は、指定科目のうち8単位まで履修でき、そこで単位を修得すると、10単位まで本学経済学部の卒業所要単位数にカウントすることが出来ます。学業のペースアップが本学であることに変わりはありませんが、近くの南山大学にも、もう一つのキャンパスをもち、異なる環境で、多様な科目を学ぶことになり、大きな成果につながると思えます。

学生は、尾張瀬戸駅を中継点に、瀬戸市内を通過して1時間足らずで両キャンパスを行き来することが出来ます。こうした制度をきっかけに、学生がきちんと目的意識をもつて積極的に本学のキャンパスの外に出かけ、そして地域とかかわるさまざまな機会を持つ、実は、こゝな点にも、この単位互換制度の教育効果があると期待しています。



## チャペルのかたすみで

## 十 聖書について

キリスト教センター

山田直義  
やまだなおただ

学生のみなさんは、図書館の玄関を入った左側壁面の前のショーケースに古い聖書が展示してあるのに気が付いていないだろうか。A3判・本文461葉(922頁)・表紙は元は立派な皮で被われていたであろうが、樫の板丸出しの状態である。文字は当時のカトリックの公用語であったラテン語・全体は黒インクで印刷されていて、巻頭には手彩色された飾り文字、中央余白部分には植物文様が施されているが、買い主の財力によってこの手仕事の部分に差がある。



現在の翻訳はその基礎となる本文として旧約は Biblia Hebraica Stuttgartensia を新約は United Bible Societies of the Greek New Testament を使用しているが、それぞれの信仰の理解の違いで様々な翻訳が存在する。また、それだけの多様な人々が聖書を読んでいるといえるだろう。

この本学所蔵と同じ物が広島経済大学に存在し、この方が皮装で、彩色が豪華なのが、チヨビトリくやし(一) 一七は、一七七八年4月「ドイツ・ニコルベルク最大の印刷業者「ヘルカー」によって刊行されたもので、世界で最初の活版印刷で有名な「グーテンベルクの四十二行聖書」に遅れること約20年である。その後1522年9月に「ルター」がドイツ語の新約聖書を出版し、宗教改革の推進の大きな力となったのである。

そもそも聖書は、旧約のほとんどが



# 市民参加とは何か 駅ビル検討ワーキング・グループに参加して

経済学部 2000年卒業  
大学院経済経営研究科経済学専攻  
2001年4月入学予定

古橋敬一  
ふるはし けいいち

2005年を視野に入れて瀬戸市が計画している中心市街地再開発事業の核であった尾張瀬戸駅前ビル構想で、昨年8月にホリエール誘致が断念された。これを機会に駅前ビルの活用を再検討しようと考えられたのが、駅ビル検討ワーキング・グループであった。縁あって瀬戸市民の方々と交流をもっていた私は、このワーキング・グループにも参加することができた。約3ヶ月という短い期間ではあったが、会議を通じて私が学んだものはとても大きなものだった。ここではそのひとつである、市民参加とは何か、について私の意見を述べてみたい。

時に私たちが産学民官などという言葉で市民を縦分けてしまっていることがある。しかしこれは便宜上にならざるを得ない。産学民官とは市民という根底のもとにわれわれが社会を構成していく上での役割とした方が的確であろう。突き詰めればすべての人はみな同様に「市民である」といえる。そんな立場から、市民参加を考えたとき、無意味な衝突や対立は起きてほしくないはずなのである。

このように考えたとき、市民参加という言葉はより正確にその可能性をいふものを強めてくれる。これまで社会を支配してきた政府と企業という二大勢力が衰退し、新たに第三の勢力として草の根の世界による市民活動が台頭してきた。それは世界中のNGO・NPO団体の活躍を見れば明らかなのである。市民参加とはこのようにしたとき世界市民による具体的な行動をさすのである。時代の先駆者である彼/彼女の美談は、税金を払って行政サービスを受けられ自分の仕事をさせていけば、富が得られる時代に終わりを告げようとしている。自立した個人がお互いを支えあい、自分自身の責任に目覚め、が自分自身の持つ力に



ついでに自覚し自信を取り戻していく。そうした中に生きがいを見出していく。そんな時代の到来を告げているのだ。

しかし、市民がいとも賢いとは限らない。「賢明な政府と愚かな大衆」とは、20世紀を貫かれてきた経済学の大切な前提でもあった。なるほど、いくら愚直で純林であっても、それだけでは駅ビルは建たないのかも知れない。しかし、だからといって自然科学の合理性ばかりで突き進んだ20世紀の末に私たちは、何を手に入れたのだろうか。むしろ、昨今取り上げられている環境問題から社会問題にいたるさまざまな混乱は、その行き過ぎた傾倒主義の犠牲となったものたちではないだろうか。

話を戻そう。私も駅ビル検討会議、また近頃一緒に活動してきた市民の方々と関わりの中で、凡人たる学生でしかない自分、自分の不甲斐なさや、それぞれの期待や利害関係の交錯するしがらみの中で、ことを進めていくことの難しさを何度も味わってきた。理想はどうかあれ、一緒に苦い薬を飲むことは容易なことではないのである。そして市民に「それはそれが生活に即反映される問題であればなおさらのことである。しかし私たちが「この」歩みを止めるわけにはいかない」のである。

政府の存在は、地球環境などのグローバル問題に関与するに小まざる。だからといって、個人の生活レベルにおけるミクロの問題を解決するには大きすぎる。そのときに、よりダイナミックで流動的な市民の団体は、流行無形に広がる隙間を埋めつつ大にも小にも活躍していくことができる。自覚した市民の力が、いまこそ必要とされているのである。たしかに市民は合理的ではない側面もあるし、「見返りあり」であるようなことを重要に思ったり、裏切ったり、自分の私利私欲ばかりを追求する人々もいる。そんな不確かな市民の連帯が果たして強固なものになりうるのか、という疑問もある。それでもどうすればいいのだろうか。大切なのは、学びつづけるという姿勢ではないだろうか。

留学から帰ってからの半年、元気がだけが取り柄の学生は

その仲間たちを引き連れ、瀬戸のまちに降りて行った。世の中いろんな人がいたものだ。それぞれ個性に出会うたびに、驚かされ尊敬し、感謝をし、そして時には涙ぐましい返事も多かった。しかし、一貫して私たちが大切にしてきたことは、どんなことから学んでいくかという姿勢である。どんな人にも自分には持ち合わせていない何かがあるものだ。そしてその一点を敬つことができるならば、私たちはそこから大切なことを学ぶことができるのであり、さほどには、そんな人々をも巻き込んで、楽しいことを起こしていけるのである。そんな前向きな樂觀性こそ大切なのだ。自分の道を行けばいいと思う、先へ先へと歩いていくことに、困難も楽しみも見出していかばいいのである。そして、私たちが忘れてかけている人生の充実があるのだから。市民参加の醍醐味と可能性は、そんなところにあると思う。

この成果として私たちが、人ロコニケーション同好会昨年11月発足として中心市街地商店街の一角に店舗事務所を置かせてもらうことになった。これまでの過程において、私たちが手に入れた信用という人間関係は、なものにもかえ難いものである。いよいよ本陣はまちなかである。

さて、2005年に向けて駅ビルの建設は始まっていくだろう。建設の槌音を音頭と響かせ、大切なのは用意された舞台に躍り出る市民の連帯である。NGUの学生たちも品野の杜を飛び出して、いよいよ歩き始めるときが来たのかも知れない。私が好きな太古の歴史説に、人類の起源を探る、ミツンブリンにまつわるいくつかの説がある。サルが人間に進化する過程において、杜の聖人たちは、2つの選択を迫られた。杜に残り賢くなるのをまつのか、それとも安息の杜を抜け、未知なる荒野へ歩みを進めるのか。私たちの先祖は、どうやら後者を選んだのではないかと、いつかの、昨今の有力な説である。私は、この物語のような歴史説が好きだ。思考を重ねることが大切なのは言うまでもない。しかし、その一歩を踏み出す。二番の選択に迫られたとき、私には、それが太古の聖人の声が聞こえてくるのである。

# 瀬戸の顔をつくらう



歴史の街瀬戸には見るべきものが溢れている。にもかかわらず瀬戸の人の中には、瀬戸には語るべきものが何もないという思い込みや、ある種の諦めが漂っている。確かに二百年の歴史は資料館の中に埋没し、市民活動と生き生きとした交わりをまわっている。なつにはとも見えない。それにはなつが陶磁器生産に希望を託してきた直近の記憶さえも過去の間に消え去るようになっている。地場産業が活力を失ったこと、不振になった1980年代後半、そして転業・廃業がもつあたりまえのようになつた90年代と、瀬戸の風景は大きく変貌を遂げ、陶磁器産業の町並みは寸断されている。だから、やや自虐的な発言が地元を闊歩するものも、まあやむをえないことなのかなと僕も思いつつ、しかしなあ、といつかだからと、瀬戸の顔づくりを急がねばと強うたがう。

瀬戸にはまだまだたくさん見るべきものがある。それを観光素材として活用するのが、市民の歴史観再構築の場とするのか、はたまた次世代を担う若い人たちにむきと意識を深めてもらう刺激剤として利用するのかがはたもかくとして見せざるを得ない。生きていく遺産(をひとつつながらり)のものとしてストーリー性をもたせる必要がある。そうすれば、何もなげに

われる中心市街地にも、もう一度活気が戻ってくるに違いない。  
尾張瀬戸駅前ビルの構想はそんな期待の星にならなければならぬ。駅前ビル計画を市民の視点で考えてくれないかという瀬戸市からの依頼は、僕がほんやり

## 尾張瀬戸駅地区 再開発ビル



イメージ図

と上記のようなことを考えているさなかに舞いこんできた。僕たちはほら、そくローキーマターを立ち上げたがそのメンバーの中にNGUから僕を含めて3名の教員と2名の学生を含めることにした。わずか3ヶ月とつ限られた時間的制約の中で、僕たちは8回の

会議を精力的にあちこちとにも、市民フォーラムを開催して、まじまじに市民が積極的に関与するこのモデルをくぐりこむことに成功した。

駅前ビルは尾張瀬戸駅のまんなかにできる。あわせておきなロータリーの広場空間も地下の駐車場も併設されることになっている。僕たちはその検討を、まず瀬戸らしきとは何かとつづいて問いがけがら始めた。それは中心市街地の発展にかける市民の願いや要望、さらには地域開発の視点などと交差させることにより、市民主体のビル計画を進めていくのである。もちろん市民の要望のすべてがビルの中に実現できるわけもなく、あれも喚びたい、これも欲しい、市民感覚からみればなんとも意に沿わないものなかももしれない。でも、瀬戸を演出する仕掛けは街の随所に散らしている。それを歴史の軸としては陶磁器生産に集約することができると、同時にそれは瀬戸の民が自然と多様に交わった証しでもある。もうひとつは瀬戸の「ものづくり」を「わざ」として外来者に印象させることである。観光が果たして瀬戸の活性化の起爆剤になるかどうかはともかくとして、瀬戸の人々自身が自らの伝統的技術をもつ度立ち返って、新しい産業を考えることこそが大切なのである。そういう自信に満ちた活動拠点として、駅前ビルを考えたらたのである。市民が参加し、市民が見つけ、瀬戸の活力の源泉とならなければならぬ。そこに僕たちは大学の核をも置きたいと考えている。大学が18歳対象のモトリアムラントではなく、市民文化の中心なだけに、これを大衆化時代を迎えつつある大学の一角から主張することは、地域に根ざしてなお世界共学を目指す僕たちNGUの生き方そのものである。それに共鳴し、参加する学生の皆さんが、まじまじに中心市街地の商店街に拠点を形成しつつある。NGUの学生活動は今、キャンパスから大きく広がり、21世紀の文化モデルを主張し始めたのである。NGUだからこそできる学生活動を、僕たち教職員がどう支えていけるのか、問われる時代なのだ。

木村光伸(学長)



# 世紀を越えて

このエッセイが活字になる頃はもう新世紀到来気分もすっかり沈静していることだろうが、せっかく21世紀最初の号に執筆の機会を得たのだから、ここはやはり新世紀にちなんだ話題を取りあげようと思う。それも、私のどうでもよい周辺雑記でお茶を濁すのではなく、格調たかく学問の話をしたいが、さて、専門の哲学の分野を見渡しても、これといったトピックが見つからない。そこで、他の分野に目を転じると、昨年5月、クレイ数学研究所というところが21世紀に向けて発表した「ミレニアム賞問題」というのがあった。これは、同研究所がパリで開かれた例会で、100万ドルの懸賞金を付けて数学上の7つの未解決問題の解答を数学者たちに問うたものである。私は数式などはさっぱり分からないが、数学には惹かれるものがある。100万ドルという賞金もさることながら、このようにみなが同じ基準で競い合えるというのは羨ましい。ちなみにその7問とは、PNP問題、リーマン予想、ポアンカレ予想、ホッジ予想、パーチ、スウィナートン・ダイヤー予想、ヤン・ミルズ理論、ナビエ・ストークス方程式である。とくに最初の3つは、三大難問として有名である。

1994年(最終的公認は1995年)、A・ワイルズが、300年以上も解決を拒んできたフェルマー予想をついに証明して話題となったが、上記の7問もそれと同じくらい、あるいはそれ以上の年月を解決に要することは大いにあり得る。ここで認識すべきは、これらの問題の解決は、最終的に解答を出した者一人の手になるものではないということだ。ワイルズの偉業にしても、それまで開拓され蓄積されてきた先人の理論の上に成り立っている。360年という永さがそのまま証明の長さとも、ある意味言える。最終的解答者はいわば、その長い長いプログラムの最終ステップに位置する者なのである。

「証明は見渡されなければならない」とは、哲学者ヴィ

トゲンシュタインの言葉だが(『数学の基礎』)、確かに、永遠に続く証明式というのはナンセンスであろう。それは、いつまでたっても出力しないコンピューターの前でおあずけを喰っているようなもので、解答を手にする前にいずれハードがいかれ、人の寿命が尽きる。しかし、数学をある一定のルールに則ったゲームのごとくみる形式主義ではなく、人間の基準から独立した客観的真理としてみるプラトニズム(こちらの方が多数派だと思うが)の立場を取るなら、掟破りの永遠に続く証明式があってもおかしくはないのではないか。少なくとも、それこそ神にしか見通せぬ証明式の問題が存在する可能性は否定し切れぬであろう。そうなると、たかだか21世紀といった狭い枠組みを越えて、話は永遠の難問といった壮大な規模にまで広がる。

思えば、人類というプログラムがいかなる出力に達するのかという問いこそ、われわれにとり永遠の問題であろう。その問題の解決はすなわち人類史の終焉である。しかし、生に限りあるわれわれは、今、この場で証明式を最後まで見通したいと考える。いったい何が証明されるのか知りたいと思う。その熱望が哲学の問いとなって出てくる。そして、その方法となってくれるのが、想像力である。人間は有限なる存在であるが、想像力によって無限をも思い描くことができる。優れた哲学とは何より、優れた想像力の産物である。そして、これはあらゆる学問に言えることではなからうか。目今の地道な研究も、その推進力となってくれるのは先を見はるかす想像力であろう。

人間一世代で答えの出ぬ問題は山ほどある。だから答えを出すことに性急にならず、時間の制約を乗り越える想像力だけは豊かに持っていたいと思う。



すずき けいじ  
鈴木 啓司(外国語学部 助教授 フランス語担当)

## 早川ゼミ

早川 厚一  
(経済学部教授)



早川ゼミの大きなテーマは、日本の中世を文学から描き出すことです。ゼミ生はこのテーマに沿って、「御伽草子」や「今昔物語集」や「宇治拾遺物語集」などを深く読み解きます。その際、研究の仕方や文学的思考などの能力が必要となります。

そこでまず、3年次生で4人組のグループになり、「御伽草子」を深く読み解きます。ここでは、文学の他に歴史学、民俗学、芸術など様々な分野から作品を見る必要があります。ゼミ生はグループで、数々の書籍、研究論文、インターネットから答えとなる事柄を集め、それらをまとめて発表します。その時、ゼミ生全員

から様々な質問が出され熱心な議論が繰り返され、ここで研究の仕方や発表する能力などが身に付けられゼミの基礎能力が養われます。

そして、4年次生でこれらの能力をグループ発表ではなく個人発表で発揮します。ゼミ生は個々に「今昔物語集」や「宇治拾遺物語集」のどちらかの作品を自分の興味に応じて選び研究し発表します。そして発表を終えたゼミ生から卒論の作成に入ります。

卒論の題材としては、「相撲」、「鬼」、「宗教」など様々ですが、どの題材も興味深いものであり、日本を違った視点から見ることができ、大きな喜びと感動を得ています。

一切甘えの効かない非常に厳しいゼミではありますが、社会に役立つ能力を身につけられ、日本というものを正しい目で見ることもでき、熱心な議論はゼミ生同士の友情も深められ中身の濃いゼミになっています。

また、経済学部生が日本文学を学ぶことは意味のない事であるとよく見られますが、日本を経済学と日本文学という二つの武器で見ることができ、早川ゼミ生は、「質の高い社会人」になれると自負しています。

(経済学部4年 縣恒)

## 小嶋ゼミ

小嶋 博  
(商学部教授)



小嶋ゼミの一番の特徴といえるのは旅行です。小嶋先生のゼミ旅行は他のゼミ旅行は知りませんがとにかくすごいです。去年は北陸方面に行きました。旅行自体は兼六園や東尋坊など古風なところをたくさんと渡り歩きました。1日目にはみんなそれぞれ仲の良い友達とかがたまっていました。私も実際のところ3人の友達しか知りませんでした。しかし、小嶋ゼミの夜はすごかったです。知らなかつた子と飲んで食べてこまめには普通のコパのようなドンチャン騒ぎでした。しかし、2日目の夜なんて

3年のみんなが壊れたように「ケチンショ」になりカラオケを歌うステージでホテルの従業員さんも含めて暴れまくってました。もちろん、次の日からはみんな人見知りをするのもなく仲良しになってました。このゼミ旅行はバスでの旅行なんでもさまざまな景色やいろいろなものを眺めることができると思います。また、食事もとても豪華です。力を中心にさまざまな海鮮料理が出てきました。ゼミ旅行は小嶋ゼミ最大のイベントです。

次に、小嶋ゼミの授業風景についてです。先生の講義は非常にゆったりとしてうけやすいです。まず、3年生の私たちは最初に株式の売買ゲームをしました。これは、新聞を見て自分の空想の株を買って、資産を増やしていくゲームです。これが意外に面白く、はまる人はけっこうはまっちゃいます。しかも、先生はひとりひとりの授業態度をおおらかに見ている所もあり、講義自体としてはとてもいい環境にあると思います。

まじめに楽しく講義をするのであれば、小嶋ゼミは最高かつ最強のゼミだと私は思います。ゼミでの友達は2年を過ごしていくなかでとても貴重な友となります。そんな友人を作りたい人、楽しくゼミを受けたい人はぜひ小嶋ゼミを受講してみてください。

(商学部3年 高橋利行)



# シリーズ Circle 短信

体育会

## バレーボール部

私たちバレーボール部は、部員12人からなるクラブです。部員のほとんどが高校の時にならなかの形で活躍していた人で、大学でもバレーボールをしようとクラブに入ってきた人たちです。しかし、ただでさえ部員が少ないので、人数がそろわない時などは実戦的な練習ができなくなってしまう、大変困っています。

バレーボールのおもしろさは、団体競技でありながら個人の精神力が問われる点です。ネットをはさんだら一人一人がお互い敵となり、どちらかのチームの誰かが自分に負けた時点でそのチームは負けてしまうのです。だから一人一人が、誰にも負けないという精神力をもっていないといけないのです。しかし精神力というのは、自然に備わっているものではありません。毎日の厳しい練習に耐えていくからこそ、つくものなのです。

バレーボールと聞くと背が高い人がするスポーツだと考える人も少なくないと思います。実際に身長も関係はあるのですが、一番はや



はり本人のやる気です。背が低くてもできるポジションはあります。後は、本人のがんばりでいかに自分の長所を伸ばしていくかだと思います。現在は部員が少ないので、がんばりが認めてもらえれば誰でもレギュラーになれます。

去年はあと二歩のところまで昇格が出来なかつたので、今年こそはと思い、日々練習に励んでいます。ですから、なにかをしてみたい、と思っている人は、一緒に厳しい練習に耐えて一部昇格を目指してがんばりましょう。

(経済学部1年 堀内大輔)

文化会

## 放送文化研究会

放送文化研究会は、文化会の中でも大きいサークルで、現在の部員数は56名です。名前を聞くだけではどのような事をやっているのかわかりにくいと思いますが、司会進行をするアナウンス科、BGMを担当する技術科、そして2つの科をまとめる企画科に分かれており、部員全員がひとつの目標に向かって活動しています。

部員は、全員が放送関係の活動にかかわったことのない人達ですが、日々がんばって自分の科の仕事をうまく行くように努力をしています。活動内容はゲーム番組を作ることで、まず部員がいくつかのチームに分かれて企画を立て、番組中に流す音楽を決めます。次にリハールを行い、反省点を見つけ、それを生かして本番に役立ちます。本番では、お客さんを楽しませることが第の目標としてがんばっています。

私達のサークルでは、1年間でいくつもの番組を制作します。番組を制作する度にチームが変わるので、サークル内でいろいろなメンバーと交流することができ、みんなとても楽しく取り組んでいます。普段はにぎやかで冗談などを言いあつて

いますが、番組制作となると普段とは違い、とても真剣に議論します。そんな私達の活動のメインは大学祭ですが、その他に子供を対象としたゲーム番組を制作したり、他の大学と協力して番組の制作をしたりしています。本番にお客さんが見せてくれるその笑顔に、私達は番組を制作した達成感を得ることができるとです。

皆さんも、よかったらこの放送文化研究会の活動を大学祭などで見てください。

(経済学部2年 磯崎守克)



# ランチタイム 学生食堂紹介 ～ファーストスクエアとチ～

## ファーストスクエア

第1学生食堂



こちらは日本セネラルビルが運営するファーストスクエア食堂です。こちらの食堂では1日およそ800食の食事を学生の皆様に提供しております。提供メニューとして、ランチメニュー4種類（410円）、450円、丼物（250円）、350円、カレー4種類（300円）、330円、パスタ、そば、ラーメン類15種類、180円、250円、バタ、3種類、250円）を用意しております。その中でも、学生さんに1番人気のあるメニューが口替わりランチで、毎日趣向を凝らしたボリューム感のあるランチを提供しております。当食堂の厨房内にはパンを焼ける設備が整っております。この設備を利用して毎日

数種類の手作りパン（60円）～180円）を販売しておりますので、是非皆様も焼き立てパンをご利用ください。また、提供カウンター右端に位置する鉄板コーナーでは、お客様の目の前で焼き立てはお好み焼き（250円）を焼いて提供しております。さらに、鉄板コーナーの目玉商品として、焼き立てステーキ丼（500円）を始めました。数量限定の商品でございますので、急いでお越しください。当食堂の店長も、学生の皆様が食べたいものを可能な限り提供したいと考えておりますので、食堂で見かけたら気軽に声をかけてください。

### チーフのコメント

これからも皆様満足できる食堂運営に努めて参ります。どうぞよろしくお願いたします。



焼きたてステーキ丼 500円



唐揚ランチ 410円

## チ (フォルテ)

第2学生食堂



フォルテ第2学生食堂は今年4月で10年を迎えることとなりました。開店以来多くの皆様に御利用いただきましたことを心からお礼申し上げます。当食堂開店にさいしましては、それまでの定食形式でなく、カルト料理を自由に選べ、自分の食欲や経済状態に合わせた、オリジナルな食事を取れるカフェテリア方式と麺類・丼・コーナを併設しました。メニュー構成は、カフェテリアコーナーでは冷蔵ショーケースの中にサラダ・デザート・フルーツ惣菜等各種取り揃えています。カルト料理ではオムレット・しそとんかつ・フライドチキン等全16種類（150円）～350円）

カレー・ハヤシ・ピラフ各種（180円）～350円）など日替わりで提供させていただいております。麺類・丼・コーナでは丼物6種類、麺類26種類（190円）～400円）を二品ずつ手作りしております。出来立ての味をご賞味ください。現在でも利用される学生の嗜好をつねに考え、また季節に応じ、丼・ピラフ・パスタ・エア・グラタン・ピラフ・冷し麺・エアを行うなど、一人でも多くの方に好まれる食堂を目指しておりますので、宜しくお願いいたします。

### チーフのコメント

より多くの方々に利用していただくよう、料理などに対して要望がありましたら、気軽にあしやうて下さい。



鉄ばんオムライス 350円



そばめし 260円



## 2000 本学の動き

—この1年—

- 4月 入学式(4/3) 春学期授業開始(4/11)
- 5月 瀬戸市民大学講座「インターネット入門」(5/12-6/9) 別科フィールドトリップ(5/24-5/26) 留学フェア(5/29-6/2)
- 6月 チャペルコンサート(林裕美子、小橋由布子 両氏)(6/3) 中国語スピーチコンテスト(6/7) 父母会総会(6/17) 公開講演会(名古屋大学教授 天野政千代氏)(6/19) 学部長表彰(6/21) 商学部企業見学会(トヨタ自動車株式会社)(6/9) 学生大会(6/28) 宗教講演会(家本賢太郎氏)(6/30)
- 7月 宗教講演会(ポール・ガラン氏)(7/5) 春学期末試験(7/17-7/31) オープンキャンパス(7/22) 英語教育セミナー(トロント大学教授 Alister Cumming氏)(7/24-7/28) 公開講演会(ノースカロライナ大学ウィルミントン校日本語専任講師 加納洋子氏)(7/26)
- 8月 体育会フレッシュマンキャンプ 荘川村(8/1) 親子陶芸教室(8/5) AO入試 体験入学(8/19-8/22) TOEFL講座(8/21-9/8) オープンキャンパス(8/24) 父母懇談会(浜松、四日市)(8/24)
- 9月 父母懇談会(金沢、岐阜)(9/2) 父母懇談会(本学)(9/9) 留学生別科秋学期入学式(9/14) 高校生英語論文スピーチコンテスト(9/15) 父母懇談会(名古屋)(9/16) 大学院修士課程第1期入試(9/23-30) 秋学期授業開始(9/28)
- 10月 創立記念日礼拝(10/13) AO入試、編入学試験(1次)(10/21)
- 11月 大学祭・ホームカミングデー(11/2-11/5) 陶芸館まつり(11/3) 推薦入試(11/11-18) チャペルコンサート(米山麻美、松崎祐一 両氏)(11/18) 英語スピーチコンテスト(11/29) 商学部企業見学会(アサヒビール名古屋工場)(11/29) 商学部経営者講演講座(株)シンクフォリスト社長 今津陽子氏(11/29)
- 12月 秋季献血運動(12/4-12/5) 手話講演会(草の根ろくあ者懇談会事務局次長 斉藤澄子氏)(12/6) 学生大会(12/6) 体育会・文化会リーダーズキャンプ(12/9-12/10) 公開講演会(早稲田大学名誉教授 森田良行氏)(12/9) 課外活動学生部長表彰(12/13) チャペルスタンドグラス除幕式(12/15) 父母会寄贈彫刻モニュメント設置(12/20) キリスト降誕祭・市民クリスマス礼拝(12/25)
- 1月 公開講演会(京都大学総合人間学部教授 阿辻哲次氏)(1/13) 秋学期「学年末」試験(1/18-1/31) EXPO2005プロジェクト研究会シンポジウム(1/20) 公開講演会(立教大学社会学部教授 平賀正子氏)(1/23)
- 2月 一般入試(前期)(2/1-2/4) 編入学試験(2次)(2/2) 大学院修士課程第1期入試(2/10-17) 大学院博士後期課程入試(2/18) 一般入試(後期)(2/27)
- 3月 学位記授与式・学長表彰(3/15)

2000年度に課外活動で著しい活動成果をあげた団体と個人に対して学生部長表彰が行われました。

団体表彰では昨年度より1クラブ増え10クラブが表彰を受けました。特にスキー部・馬術部・バドミントン部・ボクシング部は昨年度に続き連続して受賞しており、毎年表彰対象となる活動成績を残し、安定した強さを維持しています。また、ソフトテニス部・卓球部・バレーボール部はリーグ昇格し、新たに力を伸ばし、着実にその実力を発揮してきているクラブも現われています。

個人表彰では昨年度より5名多い43名の学生が表彰されました。彼らは個人で優秀な成績を修めていることはもちろんのこと、所属するクラブの活発な原動力ともなっています。団体で表彰されたクラブには個人として複数の選手が表彰されていることから、その活躍ぶりがうかがえるでしょう。ボクシング部・馬術部は、全国大会への出場選手がいます。すばらしい成績を修められたみなさんの栄誉をたたえ、ともに今後引き続き活躍されることを期待します。また、今回は表彰の対象とならな

## 2000年度課外活動報告

かつたみなさんについても、着実に実力を備えてきていることは確かであり、体育会・文化会を問わず、普段の練習や準備に努力を重ねていることに敬意を表したいと思います。

また、2001年度特別援助クラブが決定されました。これは活動の目標が明確であり、しっかりとクラブマネジメントを行い、上位ランクを目指しているクラブに対し、その活動に援助金を支給する制度です。各クラブからの申請に基づき、これまでの活動内容と実績を鑑み、2001年度は7クラブに対し援助金40万円を支給することとしました。これらのクラブは他のクラブの模範となるよう、援助金を有効活用して上位ランクへ昇格して優勝を目指すべく、今後の更なる活躍が期待されます。今回この対象はならなかったクラブも、常日頃の活動と実績を積み重ねて特別援助クラブに選出されるよう励んでもらいたいと思います。



### ● 課外活動成績優秀者を表彰 ● 学生部長表彰

2000年度課外活動で優秀な成績を修め、本学の名譽を高めたクラブ・個人をたたえる学生部長表彰の表彰式が12月13日(水)に第3会議室で行われました。以下の10クラブ、43名の代表およびみなさんに早川学生部長から表彰状と副賞が授与されました。

#### 団体表彰

硬式野球部 / ゴルフ部 / スキー部 / 水泳部 / 卓球部 / ソフトテニス部 / ボクシング部 / バドミントン部 / バレーボール部 / 馬術部

#### 個人表彰

渡邊一史(アーチェリー部・経済4年) / 住田絵美(アーチェリー部・外国語2年) / 伊藤良太(ウエイトトレーニング部・商4年) / 中村恭平(空手道部・経済1年) / 大内沙織(硬式テニス部・経済3年) / 谷 収(硬式野球部・経済1年) / 菊池克典(硬式野球部・商3年) / 永井宏和(硬式野球部・商4年) / 長谷部充央(硬式野球部・商4年) / 小山哲矢(ゴルフ部・経済卒業) / 太田準一(ゴルフ部・経済3年) / 平井伸泰(ゴルフ部・経済3年) / 谷田政志(少林寺拳法部・商3年) / 北岡真一(少林寺拳法部・経済3年) / 小澤由紀(少林寺拳法部・外国語4年) / 根木邦典(少林寺拳法部・外国語4年) / 宮本亜矢(スキー部・経済4年) / 清水なつき(スキー部・経済2年) / 花井香奈(スキー部・経済4年) / 長瀬邦良(スキー部・商3年) / 斉藤祐司(スキー部・経済2年) / 赤川裕輝(スキー部・経済2年) / 吉田祐一(スキー部・経済4年) / 吉田深可(スキー部・商2年) / 安藤美季(スキー部・商2年) / 両角和彦(スキー部・経済4年) / 河島知果(スキー部・経済3年) / 丸山友之(スキー部・外国語卒業) / 吉田秀敏(卓球部・経済1年) / 加藤香里(卓球部・経済1年) / 大村 忠(ボクシング部・経済3年) / 近藤啓太(ボクシング部・経済1年) / 井戸大輔(ボクシング部・経済2年) / 宇野木和之(ボクシング部・商1年) / 伊藤 剛(ボクシング部・経済1年) / 小林正明(ボクシング部・経済4年) / 横地弘行(馬術部・外国語2年) / 中嶋孝志(馬術部・商3年) / 山田喜洋(馬術部・経済4年) / 花田純一(バドミントン部・経済3年) / 井端利光(バドミントン部・経済2年) / 森 啓記(バドミントン部・経済3年) / 高木英之(バドミントン部・経済2年)

### 長い間ありがとうございました 3教授が最終講義

2001年3月末で定年退職をされる深見勲教授(経済学部)、町田隆哉教授(外国語学部)、西村高夫教授(経済学部)の最終講義が開講され、多くの学生や教職員が受講しました。



就任、1969年には教授となられています。本学の共通教育における自然科学分野の教育を担うとともに、研究所長や図書館長を歴任されてきました。

町田教授は1966年経済学部講師として就任、1974年同教授となられ、1989年には外国語学部の教授として英語教育工学分野の教育に力を注がれました。とくに教育工学では日本における草分け的な存在で、本学の外国語教育のレベルを全国的に高められました。大学における行政面では評議員、常任理事のほか国際交換計画委員長、外国語教育研究センター長などを歴任されてきました。



西村教授は1964年経済学部講師として就任、1973年には教授。経済政策部門や外国経済分野の中国経済論などを担当、とくに「E」指導に卓越され、これまでに約1,000名を超える卒業生を育ててこられました。大学行政面では2期



が、秋葉教授はこれまでの研究のまとめとして研究報告を教職員むけに講義をされました。可児島教授は大学院での特任教授に就任が予定されています。

### 学長表彰で11名が授与

2000年度卒業証書学位授与式が栄光館で3月15日(木)に挙行されましたが、卒業生で成績優秀であった左記の11名のみなさんに、学長から直接「学長表彰状」が授与されました。(敬称略)

経済学部	栗山将和 石黒千亜紀 浅井真孝 平松正豆 縣 恒
商学部	児玉美幸 伊藤大公 野村朋子
外国語学部	神谷茂樹 江頭正顕
英米語学科	水野公樹
中国語学科	
経済学部	552人
商学部	340人
外国語学部	
英米語学科	186人
中国語学科	60人
経済経営研究科	
経済学専攻	10人
経営政策専攻 博士前期	66人
外国語学研究科	
英語学専攻	2人
中国語学専攻	6人
留学生別科	4人

### EXPO2005地域の知恵 シンポジウムを開催



本学 EXPO2005プロジェクト(代表小林甲一経済学部長)は3回目となるシンポジウムを1月20日(土)に開催しました。同プロジェクトは研究を開始して3年目となりますが、今年はとくにEXPO2000の開催されたドイツ・ハノーバー万博の視察を行い、EXPO2005愛知万博について考えるシンポジウムとなりました。

第一部では、小林プロジェクト代表が、EXPO2000と「ハノーバーの知恵」というテーマでドイツでの現地視察をもとに、このハノーバー万博が、国際的なメッセ都市としての飛躍」という明確な目標のもと、世界に向けてメッセ会場をPRする場として、メッセ会場を中心としたインフラ整備に利用した、20世紀型の開発万博の一面をもつていたなどと報告を行いました。

第二部は木村光伸学長の司会で、吉見俊哉氏(東京大学社会情報研究所教授)、長谷川武宏氏(2005年日本国際博覧会推進瀬戸地区協議会)、長江有祐氏(未来創造・21世紀と市民の会代表世話人)、小林経済学部長を交えたパネルディスカッションが行われました。



# Information

## 2001年 4月～5月行事予定

### 4 月

- 1日(日) 大学院 開講式・ガイダンス
- 2日(月) 入学式(大学院・学部・留学生別科)  
新入学生生活オリエンテーション  
学生証交付
- 3日(火) 新入生教務ガイダンス
- 4日(水) 新入生健康診断・個人写真撮影  
～5日(木)
- 6日(金) 新入生課外活動オリエンテーション
- 7日(土) 大学院 春学期授業開始
- 9日(月) 新入生履修登録  
～10日(火)
- 11日(水) 春学期授業開始  
資格講座ガイダンス(キャリアセンター)
- 18日(水) 企業経営特別研究[大学院]  
(講師:上野充久氏/東海総合研究所)  
[さかえサテライト 18:00～]
- 中旬 新入生歓迎チャペル (キリスト教センター)

### 5 月

- 1日(火) 臨時休業  
～2日(水)
- 3日(木) 通信制大学院入学式・ガイダンス
- 中旬 チャペル・コンサート (キリスト教センター)  
中旬 宗教講演会 (キリスト教センター)
- 31日(木) 2・3年生健康診断(～6月1日(金)まで)
- 下旬 留学フェア (国際交流センター)

### 履修関係書類配布

(401～404教室)

- 3月29日(木) 04生 10:00～11:00  
03生 13:30～14:30
- 3月30日(金) 02生以上  
10:00～11:00

配布後に履修登録およびガイダンスを行います。  
(経済C教室、商A1教室、外国語A2教室)  
2001年度からは「Webによる履修登録」になりますので、必ず履修登録ガイダンスに出席してください。履修登録にはノートパソコンが必要です。

### 講 座 名

- 基本情報技術者試験対策  
(「第2種方法処理技術者」の名称変更)
- 宅地建物取引主任者
- ファイナンシャルプランニング入門
- 一般旅行業務取扱主任者
- 販売士2級
- TOEIC対策
- 英検準1級
- 英検2級
- 初級シニアド
- 日商簿記2級検定試験
- ビジネス能力検定3級
- ビジネス能力検定2級
- 秘書検定2級

昨年度から父母会卒業記念事業としてキャンパス内に彫刻モニュメントを設置しており、愛知県立芸術大学に制作を委嘱しています。2000年度事業として2つのモニュメントが完成(12月20日水)午後1時から設置場所の思星館前で除幕式が行われました。

▼「語り」  
大塚道男(愛知県立芸術大学講師)



▲「飛翔のバランス」  
高橋 洋(愛知県立芸術大学教授)

## 父母会寄贈モニュメントを設置

## 2001年度父母懇談会日程のご案内

毎年多くのご父母に出席いただいております父母懇談会を2001年度も次の予定で開催いたします。詳細は別途送付いたします案内をご覧ください。

8月18日(土)

松本会場(松本東急イン)  
岐阜会場(岐阜キャッスルホテル)

8月25日(土)

浜松会場(オークラアクティホテル浜松)  
金沢会場(金沢都ホテル)

9月1日(土)

岡山会場(ホテルニューオカヤマ)  
津会場(津グリーンホテル)  
彦根会場(グランドデュークホテル)

9月22日(土)

大学会場

とくに無料化をのぞむ声が一番多く出されてきました。  
これらを踏まえ、本学では、学生サービスの充実という観点から委託先の変更、バスダイヤの改正など無料化への努力を行い、2001年4月からの実施にこぎつけたものです。自動車通学のみならず安全通学のため、無料化を機会にNGUバスを利用するようにしてください。

## 2001年度開講資格講座は13講座

4年目となった本学の資格講座について、内容の充実、合格率のアップを目指して、2001年度に開講される資格講座が次のように決まりました。「第2回資格講座ガイダンス」が4月11日(水)に予定されています。



表紙写真 / チャペル東面スタンドグラス

制作者は田ヶ原弘(壁画工房101)さんで、1990年に設置した西壁面のスタンドグラス(本学OB 82E生 井上台司さんと共同制作)のデザイン設計者です。デザインテーマは「希望」。すでに西壁面スタンドグラスで旧約聖書の「希望」というテーマで「ノアの方舟」をイメージ。東壁面も新約聖書の「希望」としてイエス・キリストを取り上げ、「希望」の2部構成となっている。

学校法人 **名古屋学院大学**

発行日 2001年3月21日

編集 名古屋学院大学 広報(UI)委員会

発行者 名古屋学院大学 学長室広報課 愛知県瀬戸市上品野町1350  
〒480-1298 TEL 0561-42-0317(広報課) ISSN 0915-8901

**本学の情報はホームページでもご覧いただけます**

<http://www.ngu.ac.jp/>